



# 宮司プレス 一〇八号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年十一月九日

◇宮司の柴田です。平成十八年六月から、一念発起（いちねんほつき）して発行を続けている宮司プレス、毎月発行の遂行（すいこう）は、第八十七号で途絶（とだ）え、道半ばとなりました。周回遅れを挽回（ばんかい）しようとして、新たな発行計画を策定するのですが、奏功（そうこう）せず、六ヶ月、半年遅れの第百八号の発行です。

◇さて、宮司プレスの既刊号でも記述したことがあります。上智大学渡名誉教授の渡部昇一先生は、誇るべき日本人としてのDNAとも言わなければならない。自然観と宗教観として、労働観であるといわれました。その国民的精神のことを生物学用語である、「刷り込み インプリンティング」とおっしゃいました。「刷り込み」とは、生れたばかりの鳥類や哺乳（ほにゅう）類に見られる一種の学習で、その時期に目の前を動いた物体を親として覚えこみ、一生それに追従（ついでいじゅう）する現象をいいます。つまりは、日本人が、生れた時から備わっているはずの精神なのです。大自然を恐れ敬い、恵みに

感謝をし、自然を大切に、自然と共に生きるという自然観。クリスマスを祝い、除夜の鐘を聞いて、神社に初詣をするという、一見、無頓着（むとんちゃく）ともいえるべき、キリスト教も仏教も「いいね」という、宗教に対する寛容（かんよう）性。そして、なにより、勤勉で勤労を尊ぶ労働観です。

◇明治学院大学武光教授の著作には、神社神道には、自然を大切に、人を大切にする、そして、明るい気持ちで人生を楽しむという三つの教えがあると書かれています。その三つの教えと、前述（ぜんじゆつ）の渡部名譽教授の「日本人の刷り込み」は、神社信仰の三本柱にぴたりと符号（ふごう）します。神社信仰の三本柱とは、宮司プレス既刊号にも記載しましたが、稲と家と御先祖様です。稲のことを、「一粒万倍（いちりゅうまんばい）」といいますが、一粒の種から、その万倍の粒、お米が収穫できます。しかしながら、稲作は、田植え、水やり、刈入れなど共同作業が必要で、定住しなければなりません。しかも、大自然の恵みも

必要です。節目節目には、神様仏様御先祖様にもすがりつつ、一所懸命につとめてきたのです。まさに、「祭政一致（さいせいせい）つち」の生活です。神仏に感謝を捧げ祈り、運命共同体としての結束を深めつつ、どんな時にも必ずお守りくださることを信じる「神信心（かみしんじん）」という、勇気を忘れずに、「日々是好日（にちにちこれこうじつ）」を願って、過ごしてきたのです。

◇宮司プレス第百六号で、「共に生き、共に生む、共生」について詳しく記載しました。共に生きるのが現状維持で、共に生むのが、新しいものを創りだしていくことだと述べたのです。共に生きるということは、過去と今を清める「祓（はら）い」だと考えます。「祓（はら）い」は、罪や穢（けが）れを清めるのです。これを「外清浄（げしじょう）」といいます。共に生む、未来を清める「禊（みそぎ）」だと思えます。禊は、罪穢（けが）れがなくても行うもので、「内清浄（ないしじょう）」なのです。まさに、「共生」とは、外清浄内清浄、「常若（とこわか）」という、「清らかさ すがすがしさ みずみずしさ」です。

◇エコノミストの吉崎達彦さんによると、日本

の国運について、四十年周期説なるものがある  
そうです。一、八六八年の明治維新から二、  
九〇四年の日露戦争までが、上り坂。それから  
一、九四五年の第二次世界大戦終戦までが、下  
り坂。戦後から四十年間は、再び上り坂でし  
た。昭和六十年（二、九八五年）、プラザ合  
意や日航墜落事故の年から、現在は下り坂、つ  
まり昭和六十年こそが、日本人が最後に「坂の  
上の雲」を仰ぎ見た年だったということになり  
ます。しかし、その周期説によると、これか  
ら先の十年後、東京オリンピックを経て上り坂  
になるはずです。今が、正念場です。毛利  
元就は、「人生には三つの坂がある。上り坂、  
下り坂、真坂だ。真坂の時にどう生きるかに  
よって、上り坂下り坂に別れる」とおっしゃい  
ました。ちなみに、私の宮司プレスの「坂の  
上の雲」は、平成二十五年九月の第八十七号と  
いうことになり、上り坂への軌道の修正が困難  
な状況で、宮司プレスも正念場です。

◇日本人の国民精神を誇りに、自然と人を大切  
に共に生き、外清浄、明るいきもちで共に生む、  
内清浄、そして、神社神道の三つの教えを守り、  
上り坂になりますようつとめたいものです。  
◇ご自愛をお祈り申し上げます。

◇十月の祭典行事報告

▼月次祭

◆彦島八幡宮 \*十月一日、十五日

◆貴布禰神社 \*十月一日

▼秋季例大祭

◆六連島八幡宮

□前夜祭、湯立神事（ゆたてしんじ）

\*十月四日

□本殿祭、御神幸祭 \*十月五日

◆田の首八幡宮

□前夜祭 \*十月十日

□本殿祭、御神幸祭 \*十月十一日

◆彦島八幡宮

□前夜祭 \*十月十七日

□献幣ノ儀（けんぺいのぎ）

\*十月十八日午前十時半

□御神幸祭 \*十月十八日

□下関市無形民俗文化財「サイ上がり神

事」 \*十月十八日午後三時

▼三菱重工(株)下関造船所殉職者慰霊祭

\*十月六日

▼舞子島八幡宮例祭 \*十月十五日

▼明神社例祭 \*十月十五日

▼朝粥会 \*十月二十一日

◇十月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◆とこわかランドゴルフ会秋季例大祭杯争奪大会

\*十月四日

◆彦島八幡宮リーグ、第四回ソフトボー

ル大会参加チームキャプテン会議

\*十月九日

◆奉賛会行事委員会有志による大注連縄  
おろしの稲藁（いねわら）取り奉仕作業

\*十月十日

◆敬神婦人会による境内除草奉仕作業

\*十月十一日

◆秋季例大祭設営作業、奉仕者説明会

\*十月十四日

◆秋季例大祭敬神婦人会奉仕作業

\*十月十六日

◆彦島八幡宮リーグ、第四回ソフトボール大

会 \*十月二十五日

※三部、十四チーム百八十四名参加

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆山口県神社庁役員会、山口県神

社庁支部長事務局長会議

\*十月十九日

◆山口県神社庁神宮大麻頒布始祭

\*十月十九日

◆下関支部神宮大麻仕分作業、三役会

\*十月二十八日

▼下関西ロータリークラブ例会

\*十月七日、二十一日、二十八日

▼その他

◆リバース彦島例会 \*十月九日、十月十六日

◆迫町自治会役員会 \*十月十四日

◆迫町消防団ポンプ操法県大会準優勝祝賀会

\*十月二十四日